

四国百山を完登して

窪井 誠二 (植野)

人生の節目である定年退職を迎え、ふと書店で高知新聞社発行の「四国百山」を見つけた。美しさに魅せられ口にチャレンジしようと思いきや、百山への挑戦が第二の人生のスタートとなった。

群馬県の山村で育ち、子供のころから山が好きであった。その影響もあってか仕事も登山一筋に。「健康づくりはまず足から」。健康づくりに早朝の駆け足(約四回)、雨の日は青竹踏み(四千回)を目課として退職前から実行している。長寿社会となった今日、自分

の健康は自分で守っていなければならぬ。その意味からも山登りは毎日を実施させたい。予えであり、健康をづくりだ。全身のスポーツと負している。

最初のうちは不安で中間と一緒だったが自信がつくと目のペースで登りたくなった。最近ほとんどカメラ片手に単独行動である。山頂での記念写真、山の魅力あふれる風景を写している。アルバムに整理し、思い出しては見るのが楽しみにしている。ついに五年の歳月を経て、ついに



百山を完登し人生の節目にすることができた。

これからは嶺北地域の五カ町村が推奨している二十山の登頂ゲームにも参加して、四季の自然を大いに満喫し三つの節目を積極的に築いていこうと思っている。

市民サロン

このページは市民の皆さんが作るページです。短歌、俳句、川柳などの文芸作品や、どんなことでも結構です。皆さんのご意見をお気軽にお寄せください。締め切りは毎月10日です。あて先は南国市企画課広報統計係(〒783 南国市大浦甲2301)です。

橋本さん、新県民文化ホールはこちらですよ。

沢本英世(里改田)



南国歌壇

南国柳壇

南国俳壇

亡妻甚い時に寂しく墨絵にて

藤原山本 茂

博多人形揃く夜半過ぎ

岡豊町 葛目治子

苗代いちご甘げに熱れて子らと競い

立田 池田小寸

われももぐり用水のへり

石南花の色美しく咲く見れば

生いず近きし人の恋しき

オーイイイといと終の無中返り

木の香新し軒をうかがい

実習に来たる看護学生の

明るい声に心なぐさむ

夢見て閉たまぶたにつゆ光る

八十路来てあれもこれもと反省し

裸目にて見る手の平よ四月馬鹿

花冷えの男が買ったうすきパン

嘆調に来てえんどうの花に逢う

大土佐へどすんと着地夏立てり

青楓そえて少なめカレー皿

節太の指は母似て尾坊主

荒波や東風に逆らう白子船

砂利の中に咲き出てあり夏草

耳取としてらららしがけりけり

里改田 福井博子

里改田 福井英子

里改田 岡田昌子

福船 大島新草

金地 池 さち

里改田 山岡みよ

浜改田 溝淵 保

田村 藤宗綾子

前浜 浜田久子

十市 大家寿恵子

十市 武市日出志

十市 八松久幸

浜改田 楠瀬富子

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

十市

これはなんてでしょう



親子クイズ

答えについての思い出などもお持ちしています。

しめきり 6月10日

あて先 〒783 南国市 大浦甲二二〇一 南国市企画課 親子クイズ係

賞品 正解者の中から抽選で5人に図書券を進呈

◎第24回親子クイズの答えは、かしわもち(しばもち)でした。

第24回当選者発表(敬称略)

西川愛(比江)

岡田富美(立田)

田所幸(岩村)

土居孝年(十市)

島本千鶴子(立田)

お便りの中から皆さんの思い出の一部をご紹介します。

◆子供のころお節句の時期がくると、おばあちゃんがあんこを煮て、かしわもちをつくるのを手伝いました。「1柱のきすにおととしの玉王王の背くらべ」と歌ったことを思い出します。

◆この前、田舎にいった祖母と一緒にかしわもちを作りました。小豆からあんこを作り、葉も採ってきて全部手作りになりました。形は変ったけど味はバツグンでした。

◆おばあちゃん、ママ、パパ、長女、長男、次男、計6名で考えました。

おばあちゃん「しばもちにかあらん」

ママ「かしわもちじゃなあい」

パパ「かしわもちよ」

長女「よもぎもちみたいな」

長男「おもちに決まっちゃうやい、わらびもち」

次男「知らん」

以上多数決で答えは「かしわもち」になりました。

◆わたしが小学生のころ、近くに住む祖母がおやつにかしわもちを作ってくれました。なんともいえずおいしかったこと、かしわもちと祖母、切っても切れない存在であったと思います。

われら仲間 サロン

広がる笑顔 踊りの輪



南国市には十七の地域公民館がありますが、その中でも特に前浜公民館は積極的にサークル活動を行っている公民館の一つです。前浜公民館に

は踊り教室(信好会、竹島会八松会)、史談会、詩吟教室、歩こう会、ダンス教室などたくさんあります。今年、踊り教室の中の一つ、「信好会」におじゃましました。

「信好会」の練習日は毎週日曜日の午後七時三十分から、この道二十年以上という師匠の西山虎喜さんを中心に、メンバーは男性一人を含む約二十人。南国市演芸大会で特別賞を二回受賞した実績もあります。

土佐日記大湊出帆記念日と祭禮(けいらん)の松を徳ふ式典や地区の納涼祭のほか、福祉施設の慰問なども積極的にを行っています。「とにかく踊りたいのが好



踊り教室(信好会、竹島会八松会)、史談会、詩吟教室、歩こう会、ダンス教室などたくさんあります。今年、踊り教室の中の一つ、「信好会」におじゃましました。